



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

しらこまひとみ
博多の歴女 **白駒妃登美**



この愛のために乱世を生きる

戦国の女城主・井伊直虎

＊戦国の乱世に咲いた女領主

大国に挟まれた弱小国が、苦難に耐え、知恵と人情で戦国乱世を生き抜いていく……。いかにも日本人が好みそうな物語ですが、さらにその領主が女性と聞けば、誰もが驚くのではないのでしょうか。

二〇一七年の大河ドラマの主役は、井伊直虎。実は女性なんです。幼名は「次郎法師」ですが、ドラマでは「おとわ」という名前で登場するので、ここでも「おとわ」と呼ぶことにしますね。おとわは、井伊谷城（静岡県浜松市）の城主・井伊直盛の一人娘。男子のいない直盛は、おとわの幼馴染である一族の少年・直親を娘婿に迎え、家を継がせるつもりでした。

ところが、運命とは過酷なものです。この縁組に不満を抱いた家臣の手で直親

の父が謀殺されると、身の危険を感じた直親は逃亡、そのまま行方知れずに……。居場所はおろか、生死さえもわからない直親を、おとわは健気に待ち続けます。数年後、美しく成長したおとわに、別の男性との縁談が持ち上がりました。

その時、彼女は覚悟を決めます。愛する直親と結婚できないのなら、いっそのこと生涯未婚のままでもいいようと、髪をおろして出家したのです。ところが……。

＊グツと思いを呑み込んで

十一年という歳月を経て、直親が突如帰国。しかしおとわはすでに出家の身、結婚は許されません。やがて直親は家臣の娘と結婚、待望の男子を授かりました。

その後、井伊家は不運に見舞われます。父・直盛に続き直親までもが亡くなり、井

井伊直虎 (?-1582) 戦国時代から安土桃山時代にかけての女領主。後に徳川家の重臣となる井伊直政を育て上げ、井伊家の再興に貢献した。

【イメージイラスト】
アオジマイコ